全東京写真連盟
撮影会写真コンクール

入賞作品集

審査対象　飛鳥山公園モデル撮影会

撮影日　2022年12月04日

審査日　2023年02月04日

審査員:HARUKI先生

金賞
「パッション」
小幡　大輔 様
モデル　愛乃音子

審査員:HARUKI先生 講評
このシチュエーションでの応募作品は他にも多くて、それぞれ素敵な作品も何点かありましたが、そんな中でも本作品はモデルさんの表情とポーズ、構図と背景のチョイス、プリントの仕上げまでがトータルでズバ抜けていました。モデルさんの表現としても彼女のカラーリングされた髪の毛と画面右下に見えるマフラーのような衣装の色味がマッチしていますね。完璧なのですが１つだけ敢えて言うのならタイトルの「パッション」はこの場合は「Passion」の方が良かったかなぁ？？と思いました。タイトルまで込みで作品ですから（笑）

銀賞
「公園の女」
荒井　秀雄 様
モデル　長谷部　彩

審査員:HARUKI先生 講評

先ず目に入ってきたのはモデルさんと彼女の衣装ですが、和洋折衷のような柄とデザインが不思議な衣装が特徴的でモデルさん自身の強い個性と存在感もありますね。写真構成としましては右側を縦に占めている黒っぽい樹木、これはモデルさんと被ってしまう邪魔な存在なので画面に入れないのが定石ですが、彼女のポーズや衣装とのマッチング（紅系の衣装と画面上部に赤くボケている紅葉）でインパクトある絵として仕上がっています。ズーム焦点距離の125mmの選択も良かったです☆

銅賞
「瞳の真実」
小倉　良二 様
モデル　HIMECA

審査員:HARUKI先生 講評

無作為ともいえる傍観者の視点から捉えたかのような作品ですね。冬の合間に差し込む明るい光線状態の中、やや無表情なモデルさんの自然体な雰囲気が落ち着いた写真となっています。画面左側にチラッと見える樹木のようなモノの入り方が半端なのが惜しいです。モデルさんの醸し出す雰囲気と背景との組合せが功を奏した素直な作品です。

入選
「枯葉舞う」
湯原　章綱 様
モデル　HIMECA

入選
「赤いトップス」
堤　博史 様
モデル　彩乃美希

入選
「陽ざしの中で」
内藤　勝之 様
モデル　山下　明穂

入選
「水彩の輝き」
小野寺　基之 様
モデル　長谷部　彩

入選
「遠くから君を」
矢島　彰 様
モデル　彩乃美希

佳作
「青空の下で」
新井　潔 様
モデル　長谷部　彩

佳作
「うす紅色に香る」
山田　栄一 様
モデル　結城　藤花

佳作
「見つめる先に」
在原　博 様
モデル　山口由恵

佳作
「ナチュラル」
池田　道政 様
モデル　HIMECA

佳作
「秋の日差し」
金澤　義夫 様
モデル　HIMECA

佳作
「穏やかな日に」
佐久間　裕史 様
モデル　戸花　桜

佳作
「坂道」
岸野　孝博 様
モデル　山下　明穂

佳作
「翔んでる笑顔」
豊泉　孝敏 様
モデル　山下　明穂

佳作
「いざ、まいらん」
北条　善久 様
モデル　長谷部　彩

佳作
「秋風」
三井　直人 様
モデル　結城　藤花

次点
「暖かい師走ですね」
深野　武雄 様
モデル　愛乃音子

次点
「feel true love」
門間　正之 様
モデル　山口由恵

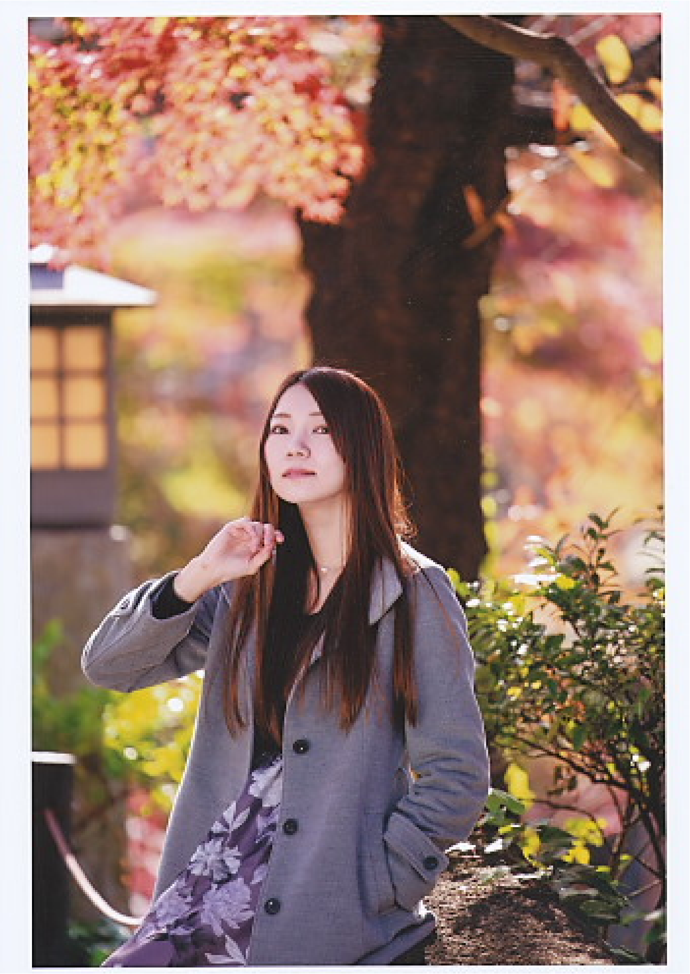
次点
「十月桜」
滝本　憲一郎 様
モデル　HIMECA

次点
「朝の光に輝いて」
髙橋　壮太 様
モデル　愛乃音子

次点
「今日もはりきって行こう」
斎藤　貴生 様
モデル　彩乃美希

次点
「冬へ向かって」
鵜飼　典彦 様
モデル　愛乃音子

次点
「秋の彩り」
猿田　善和 様
モデル　山下　明穂



次点
「色づく世界」
佐藤　和明 様
モデル　山下　明穂

次点
「赤い波」
五島　隆夫 様
モデル　愛乃音子

次点
「唐紅」
村岡　雅之 様
モデル　長谷部　彩

次点
「紅葉のしたで」
山本　和也 様
モデル　HIMECA

【 使用レンズの選択 】

以前にも少しお話ししましたが非望遠レンズについて。大人数の撮影会ではどうしても同じような位置からの撮影となることが多いです。ましてや収束へ向かっているとはいえ未だ新型コロナの感染が危惧されるような中ではモデルさんとカメラマンとの距離はある程度離れていないと危険ですし、カメラマン同士もあまり接近しないようにとの注意も必要です。

これらは仕方が無いことなのですがそうすると皆さん同じような望遠レンズ、特に70-200㎜あたりの望遠ズームレンズや85㎜～135㎜の大口径単焦点レンズというチョイスに偏ってしまいがちですね。ポートレート撮影では王道ですし、それはそれで間違っていないのですが皆さん同じような絵柄となってしまいます。もちろん素敵な作品もたくさん排出されていますのでまったく問題はありません。

今回の２件の撮影会での上位６作品には残念ながら入っていないのですが、標準レンズやワイド系レンズで撮られた作品は望遠系で撮られた作品が多い中でやはり目を惹かれてしまいます。じゃあ何故上位入賞していないのでしょうか、それは圧倒的に応募数が少ないから確率的にも低いからかと。

春が近づいてきましたのでそろそろ背景となるまわりにも色味が付いてくる頃です。諸般の条件で難しいかとも思いますがどうせ撮影するのなら標準レンズ～ワイド系レンズで周辺も取り入れたシーンも少しは撮影されてみてはいかがでしょうか？

HARUKI